

## 風船で楽しく運動 旭ヶ岡の家でダンスワークショップ 仏ダンサーが指導

© 2019年4月21日 3時00分



風船を優しくなでる動きを入所者に教えるシエエールさん  
(中央)

フランス人ダンサーのフイリップ・シエエールさん（47）によるダンスのワークショップが20日、介護老人福祉施設「旭ヶ岡の家」（赤津由里施設長）で行われた。入所者ら21人が参加し、風船などを使って楽しく体を動かした。

シエエールさんは、フランスを拠点にダンサーや振付家として活動する傍ら、ハンチントン病や水俣病患者とのダンスセッションに長年取り組んでいる。函館訪問は初めて。施設側の呼び掛けでワークショップ開催が実現し、ダンサーの阿部英太郎さん（31）＝函館＝、鈴木美里さん（28）＝札幌＝とともに訪れた。

車いすの入所者らは、音楽に合わせて風船を優しくなで、指や腕の上で転がすことから始め、シエエールさんをまねて上半身を少しずつ動かしていった。2人1組で同じ動きをする場面もあり、入所者からは楽しそうな笑い声が上がった。

妻の和子さん（92）と参加した清水恒宏さん（86）は「体を動かすことがあまりないので、大変プラスになった」と笑顔。活動について、シエエールさんは「風船は子どもの頃の記憶を思い出させてくれる。踊ることですりや指を動かす、体にいい影響を与える。気持ちも開放的になる」と話していた。（早坂直美）